

じしん みず どしゃ えきたい えきじょう か げんしょう さっぽろし じゅう
地震で、水をふくんだ土砂が液体のようになる液状化現象が、札幌市の住
たぐひい み きしゃ ほっかいどういがく げんち ちょうさ わたべ
宅街で見られた。記者は北海道大学をおとずれ、現地調査にあたった渡部
ようじょうきょうじゅ げんち き えきじょう か げんしょう さいけん じっけん いど
要一教授から現地のようすを聞き、液状化現象を再現する実験に挑んだ。

液体状化現象のおそろしさを知つた

液状化現象がよくわかるようになると、北海道大学工学部の実験室で液状化を再現してくれた。

実験では、実際に液状化現象がおきた札幌市清田区の土砂を使つた。その土砂に軽く水をふくませ、牛乳パック大のプラスチック容器に入れた。それを両手で左右からたたくと、土砂の表面がだんだんしめつてきて、そのうちドロドロになつ

た。土の上に置いた木のサイコロはしづみ、うめておいた木のサイコロはうきあがつた。渡部教授は、「液状化は、水をたっぷりふくんだ均質な砂の地盤が、地震の揺れることにより、密につまろうとするときにおこる」と説明した。そのとくに、砂の間にある水が

根本忠主 記者

上へ抜けようとして、砂がういたようになり、液状化するそつだ。さらに、同じ土砂を長方形の浅い金属容器に入れて、住宅地に近い設定で実験した。土の表面に木で作った家の模型を置いた。そして、左右からハンマーで数回たたいた。すると、土が液状化し、ひびわれもおきた。家の模型もかたむいた。人が液状化した場所にうまつてしまふと、なかなか抜けだせず、時間がたてばたつほど土砂が思つた。

かたくなつてさらに抜けだせなくなつてしまふうだ。それに対し、液状化がおこりにくい土は、粘土のように粘り気のある土だということも教わつた。液状化は、私たちの住む地域でも起きる可能性があり、とてもこわい現象だといつて、私がわかつた。私は、自分の住む地域の地形などを調べて、ほかの人にも知らせ、いつしよに液状化による被害がでないうまつてしまふと、なかなか抜けだせず、時間がたてばたつほど土砂が思つた。

<p>辛せに生きるためには<u>備え</u>をする。</p>	<p>災害が起きた時は、日ごろから備え、自分の命を守る。</p>
<p>自分の家について、 昔のことを追記 地震にもなれる ことを大切なこと 思ってた</p>	<p>(前にできさせ) 自分の家が安全なと 聞える。</p>
<p>自分の家について 地震が強いのか 弱いのかや、7.11は 必要なと考ふ。</p>	

A portrait of a man with dark hair and glasses, wearing a white shirt. He is gesturing with his hands, suggesting he is speaking or explaining something. The background is a plain, light-colored wall.

「液状化」再現実験-①

少量の水をふくませた土砂を入れた容器をたたくと、表面がどんどんしめってきて液状化した



えきじょうか さいげんじっけん 「液状化」再現実験-②

えきじょうか さいげんじっけん 「液状化」再現実験-②

